

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	住之江区
学校名	住之江小学校
学校長名	山路 恒有

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・住之江小学校では、第6学年 43名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

令和7年度における本校の平均正答率では、全国と比較すると国語では9.8%、算数では8ポイント下回る結果となりました。昨年度の本校の結果との比較では、国語では0.9%、算数では3.4%上回っており、一定の成果が見られています。

領域別ではほとんどの項目で全国平均を下回っていますが、「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均を上回っています。

児童質問紙の結果では「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して肯定的に回答する児童が100%となっており、いじめを否定的にとらえることができていることが分かりました。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】多くの内容において全国平均を下回りました。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国平均を13.1%下回り、「漢字を文の中で正しく使う」ことに課題が見られました。しかし、「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均を上回っており、一定の成果も見られています。

【算数】全ての領域において全国平均を下回りました。特に「測定」の領域は全国平均を12.6%下回っており、「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと」に大きな課題が見られました。昨年度課題となった「データの活用」の領域では全国平均との差が6.1%縮まり、「グラフや表を読み取る」力の育成に成果が見られました。

【理科】全ての領域において全国平均を下回りました。特に「エネルギーを柱とする領域」の電気回路や電磁石に関する問題に課題が見られました。

無回答率が3教科ともに高い傾向がありました。問題文を正しく読み取ることが難しく、何を問われているのかを把握しづらいという課題が見られました。

質問調査より

「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に最も肯定的に回答する児童が全国平均と比べて半分近くとなっており自尊感情が低いという課題が見られました。また「分からなないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできますか」の質問に肯定的に回答する児童は70%程度と伸び悩んでおり、自ら工夫して課題を解決する能力の育成に課題が見られています。

一方で「友達関係に満足していますか」の質問には95%の児童が肯定的に回答しており、全国平均を上回る結果となりました。

今後の取組(アクションプラン)

本校では、児童の学力や体力の向上に関する課題について分析及び検討し、全教職員と共に理解を図りながら、6年間を通じた教育活動を推進しているところです。

昨年度より研究教科を国語科として「文章の内容を正しくとらえ、自分の考えを表現できる児童の育成」をテーマに研究を進めています。「文章の内容を正しくとらえる指導方法の工夫」「読み取ったことをもとに表現するための手立て」を軸として研究を進め、学力の向上に取り組んでいきます。

学力向上支援チーム事業を活用し、学びコラボレーターや学びサポートーと連携し、放課後学習を全学年で実施しています。国語科や算数科の基本学習を中心に進め、学力の向上に取り組んでいます。

自主学習の習慣をつけるために、自学ノートを配付し、家庭学習の課題として自主学習に取り組んでいます。自ら学ぶことを決め、自らの意思で学習を進める力の育成を進めています。

【 全体の概要 】

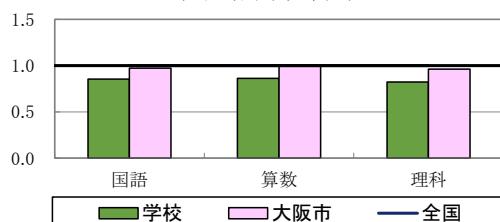
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	57	50	47
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

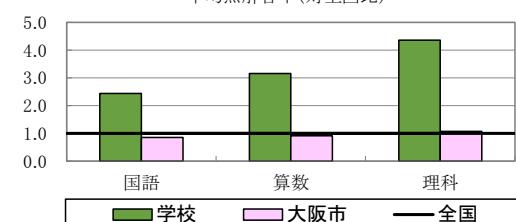
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	8.1	11.4	12.2
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



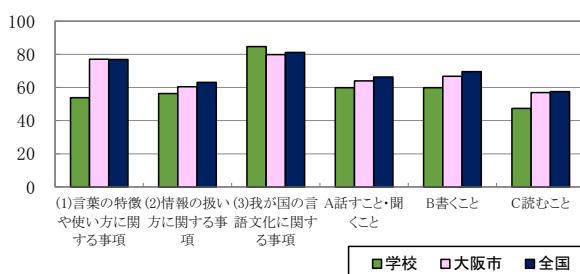
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	53.8	77.1	76.9
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	56.4	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	84.6	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	59.8	64.0	66.3
B 書くこと	3	59.8	66.7	69.5
C 読むこと	4	47.4	56.9	57.5

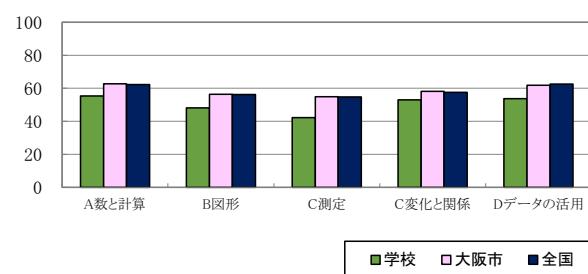
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	55.4	62.7	62.3
B 図形	4	48.1	56.4	56.2
C 測定	2	42.3	54.9	54.8
C 変化と関係	3	53.0	58.2	57.5
D データの活用	5	53.8	61.9	62.6

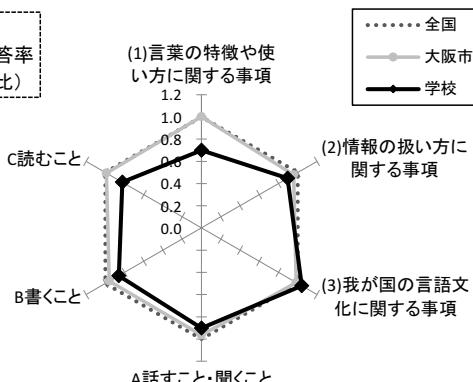
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



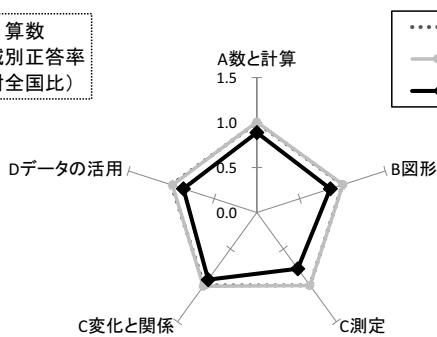
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

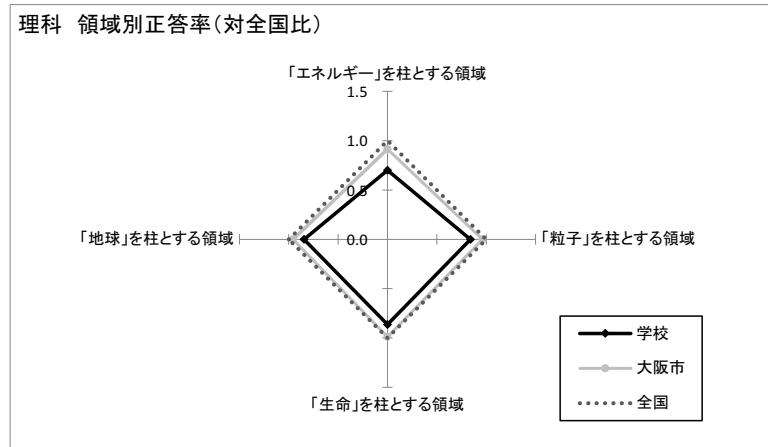
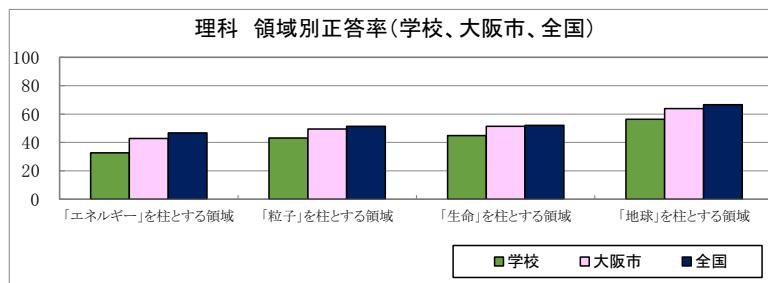


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 A 柱とする領域	4	32.7	42.7	46.7
	6	43.2	49.5	51.4
B 区分 B 柱とする領域	4	44.9	51.4	52.0
	6	56.4	63.8	66.7



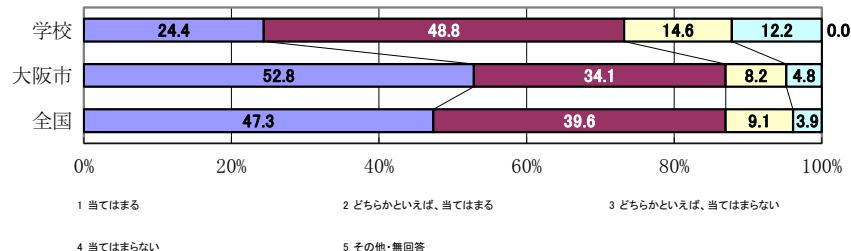
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

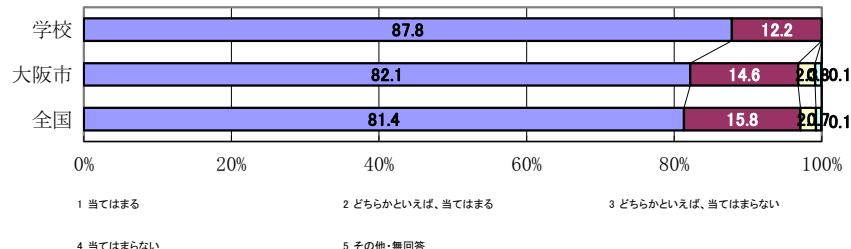
5

自分には、よいところがあると思いますか



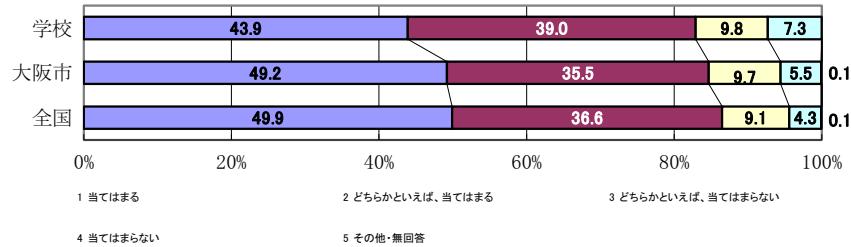
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



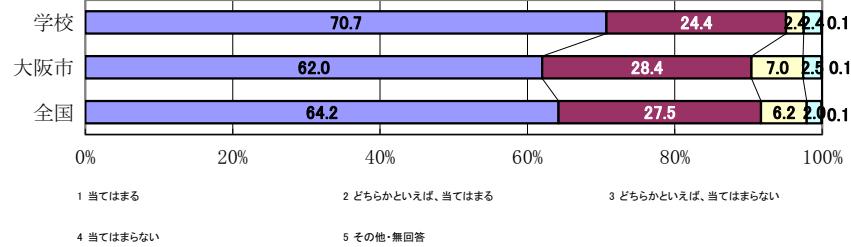
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



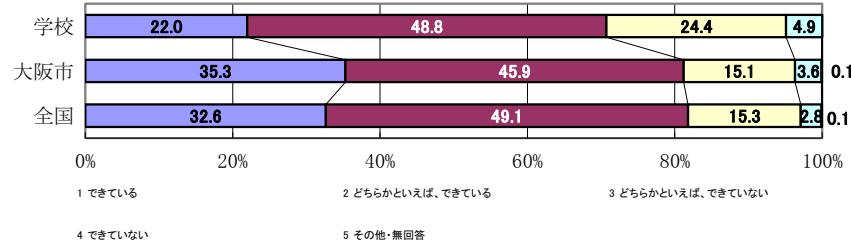
14

友達関係に満足していますか



16

分からぬことやくわしく知りたいことがあつたときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



学校質問より

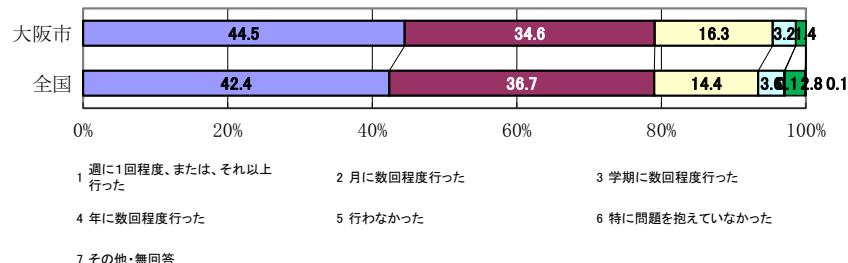
■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8 ■ 9 ■ 10

質問番号
質問事項

11

前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

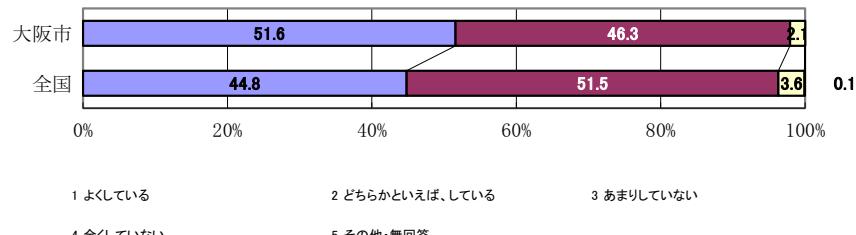
学校 「月に数回程度行った」を選択



17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

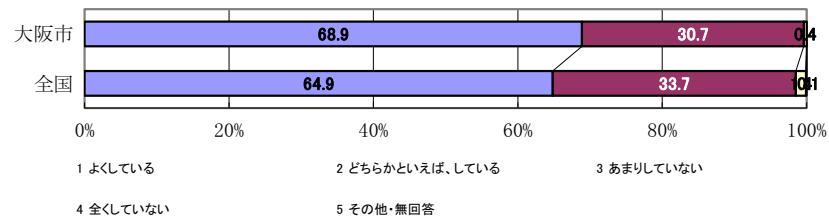
学校 「よくしている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

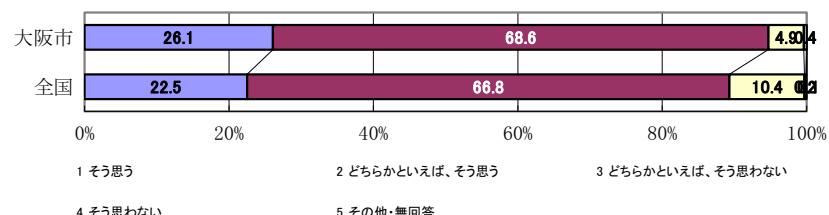
学校 「どちらかといえば、している」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思わない」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

